

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和4年度11月号

#### ○ 概要

- (1) 令和4年度11月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,527億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.6%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,354円（伸び率▲0.9%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,779億円（伸び率+5.2%）薬剤料が4,735億円（伸び率+0.3%）、薬剤料のうち、後発医薬品が933億円（伸び率▲1.8%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,393円（伸び率▲2.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.80種類（伸び率+0.4%）、27.3日（伸び率+0.4%）、71円（伸び率▲3.4%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,764億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲5億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の681億円（伸び幅+8億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+57億円（総額186億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,764 億円 (▲5 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (681 億円)	21 循環器官用薬 (587 億円)	11 中枢神経系用薬 (543 億円)
0歳以上 5歳未満	20.7 億円 (▲2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (7.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.8 億円)
5歳以上 15歳未満	84.3 億円 (▲0.0 億円)	44 アレルギー用薬 (29.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (25.7 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (7.0 億円)
15歳以上 65歳未満	1,370 億円 (+29 億円)	11 中枢神経系用薬 (271 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (256 億円)	21 循環器官用薬 (181 億円)
65歳以上 75歳未満	859 億円 (▲40 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (185 億円)	21 循環器官用薬 (152 億円)	42 腫瘍用薬 (148 億円)
75歳以上	1,430 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (251 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (232 億円)	42 腫瘍用薬 (180 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,354円（伸び率▲0.9%）で、最も高かったのは高知県（11,285円（伸び率▲4.5%））、最も低かったのは佐賀県（7,865円（伸び率▲1.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは青森県（伸び率+1.4%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲4.5%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	83.5 %	+1.7 %
薬剤料ベース	19.7 %	▲0.4 %
後発品調剤率	80.0 %	+1.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.2 %	+0.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.8 %	+10.1 % (20歳以上 25歳未満)	▲8.1 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	29.0 % (0歳以上 5歳未満)	11.8 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	83.5 %	87.7 % (100歳以上)	79.0 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	793 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (242 億円)	11 中枢神経系用薬 (143 億円)	23 消化器官用薬 (80 億円)
0歳以上 5歳未満	8.4 億円 (▲0.0 億円)	44 アレルギー用薬 (4.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	15.7 億円 (▲1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (8.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	271 億円 (+0 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (62 億円)	44 アレルギー用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	179 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (21 億円)
75歳以上	320 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (105 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (40 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,337 円	1,716 円(北海道)	1,125 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.3%	▲1.9 % (沖縄県)	▲7.7 % (岡山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	83.5 %	90.1 % (沖縄県)	79.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	23.2 % (鹿児島県)	17.0 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.0 %	85.1 % (沖縄県)	75.5 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.2 %	67.0 % (沖縄県)	55.5 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度11月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。